

基本理念

学生の自主性を尊重した教育方針を採用したことで知られる初代総長木下廣次は、本学創立後最初の入学宣誓式において、「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べ、大学人の持つべき自主性の意義を説きました。この自主性を重んじる精神は、京都大学が大切にする「自由の学風」として今日まで承継されています。



— 京都大学の基本理念 —

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

【研究】

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

【教育】

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

【社会との関係】

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

【運営】

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

— 京都大学の教職員像 —

京都大学の教職員は、京都大学の基本理念の下に、その将来像の実現にむけて、教育、研究、支援業務、大学・部局の運営のそれぞれにおいて自らの使命を自覚し、その職責の遂行に全力を尽くす。

教職員は、最善の努力を傾けて、教育・研究の双方において能う限りの高い水準を目指す。学問の自由は、これを遂行するための最も基本的な要件であり、社会規範や倫理に十分な配慮を払いつつ、教育・研究のすべての場において尊重される。

教育は、学術・文化の継承と個々の学生の能力開発・人格育成の営みであり、その実施において教職員は、性、民族、宗教などによる差別をしてはならない。研究は、学術・文化の発展と人類共有の知的資産の蓄積に資すべき営みであり、その推進において教職員は、高い倫理性と清廉性を保持しなければならない。

教育・研究を支援し、大学・部局を運営していく業務は、その持続的発展のために極めて重要である。教職員は、大学が社会的存在であることを認識し、高次の専門的能力と総合的視野をもってその職責を全うできるよう常に自己研鑽に努め、教育・研究基盤の充実、大学・部局の円滑な運営と発展に寄与する。

ご挨拶

京都大学は1897(明治30)年、我が国で2校目の帝国大学として創立され、我が国を代表する研究型総合大学として発展を遂げてきました。初代の木下廣次総長が説かれた「自重自敬」の建学精神のもと、自主性を重んじる精神が「自由の学風」として本学に息づいていることが、京都大学のかげがえのない伝統であり発展の礎です。

本学は「地球社会の調和ある共存に貢献すること」を基本理念として、自由で独創的な研究によって卓越した知を生み出し、ノーベル賞やアーベル賞、フィールズ賞をはじめとする世界的な賞の受賞者を多数輩出してきました。また、創造的精神を涵養する教育によって、優れた研究者や高度人材を数多く育成してきました。今後とも、本学で生み出された新たな知が社会で評価され、本学に人が集まり、さらに新たな知や人材が生み出されるという好循環をグローバルに展開していくことが重要です。そのためには、これまで推進してきたさまざまな改革を基盤として、研究改革、教育改革、経営改革を進め、本学の成長に結びつけていく必要があります。

本学は2026年7月に国際卓越研究大学に認定され、8月には研究等体制強化計画が認可されました。本学の基本理念のもと、本計画では国際卓越研究大学としてのビジョンを次のように掲げています。

- ・自由で独創的な研究による知の創生によって、社会の多元的な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出に貢献する
- ・世界のアカデミアを牽引する優れた研究者とグローバルに活躍する高度な専門能力を有する人材を養成・輩出する
- ・国際社会に開かれた総合大学として、世界から多様な人材が集う国際的な知の拠点(ハブ)を形成する

このビジョンを実現するための基盤となるのが、研究力の向上を目的とするデパートメント制の導入とそれに基づく研究体制および教育システムの整備・充実です。国際卓越研究大学としての認定を重要な契機の一つとして、自由の学風を礎とする京都大学の新たな学術基盤を確立し、上記のビジョンの実現を目指します。

この「京都大学概要」は、本学の理念、方針、運営体制といった基本情報に加え、教育、研究、社会貢献、国際化推進や国際卓越研究大学としての大学改革など、本学の取り組みの現状をわかりやすく紹介しています。また、京都大学Webサイトでは、大学の最新情報をお届けしています。

本冊子が皆様に京都大学をご理解いただく一助となれば幸いです。

2026(令和8)年10月
京都大学総長

立川 康人

自由の学風を礎とする
京都大学の新たな学術基盤の
確立に向けて

